

日本建築学会東北支部災害調査連絡会  
2004年新潟県中越地震の災害調査に関する打ち合わせ会議

日 時：平成 16 年 10 月 26 日(火)18:00～  
場 所：東北大学工学部人間・環境系研究棟 1 階大会議室(105)  
出席者(順不同)：18 名

田中 礼治(東北工大, 災害調査連絡会委員長)  
大沼 正明(東北工大)  
柴田 明德(東北文化学園大)  
岡田 誠之(東北文化学園大, 東北支部環境工学部会)  
源栄 正人(東北大, 災害委員会幹事)  
井上 範夫(東北大, 東北支部構造部会長)  
伊藤 邦明(東北大, 東北支部デザイン教育部会長)  
増田 聡(東北大, 地域計画部会長)  
前田 匡樹(東北大)  
栗田 哲(東北大)  
大野 晋(東北大)  
永井 康雄(東北大, 東北支部歴史意匠部会)  
佐藤 健(東北大, 災害委員会インターネットWG東北支部担当)  
三辻 和哉(東北大)  
堀 則男(東北大)  
飯藤 将之(宮城高専)  
益野 英昌(仙台第二工業高校)  
田中 享(東北工大, 学生)

資料：

資料 1-1 日本建築学会東北支部災害調査連絡会打ち合わせ資料(佐藤)  
資料 1-2 平成 16 年新潟県中越地震の初動調査(概要報告)(源栄・大野・佐藤)  
資料 1-3 小千谷市における被害状況調査のメモ(源栄)

議事：

- ・ 2004 年新潟県中越地震災害調査に関する日本建築学会東北支部としての当面の対応について以下のように協議した。
- ・ 資料 1-1 に基づき、佐藤から インターネットWG東北支部担当からの協力依頼について、災害調査に関する諸学会の動向について、災害制御研究センターによる初動調査について、関係各機関の初動調査結果について、概要の説明があった。
- ・ 災害調査に関する諸学会の対応については、以下の通り。
  - 土木学会東北支部緊急災害調査WG(委員長：今村文彦)：土木学会東北支部緊急災害調査WGとしては組織的な対応はしない方針。10/25 今村先生に確認。
  - 地盤工学会東北支部：東北支部としては組織的な対応はしない方針。非組織的な調査活動は一部で既に実施中。10/25 風間基樹先生に確認。地盤工学会では新潟県は北陸支部。
  - 東北大学理学部地理学教室(平野先生, 村山先生)：初動調査で現地入り(10/24～)
- ・ 資料 1-2 に基づき 源栄先生から災害制御研究センターによる初動調査の概要が報告された。
- ・ 資料 1-3 に基づき、源栄先生から被害の特徴、キーワードの整理が行われた。
- ・ 東北工大の田中先生, 大沼先生による初動調査の概要が報告された。
  - 24 日に現地入り。午後長岡到着, 長岡市中心部および長岡市十日町地区を調査した。小千谷までは行っていない。(大沼)
  - 長岡市, 小千谷市を中心に調査した。場所による被害の格差感じた。木造は構造計画上の問題と古い建物の比率が多い印象を持った。雪国特有の RC 造の高基礎と木造

上屋との接合部に問題があるのではないか。建物の被害率としては、昨年7月の地震ほどではないと感じる。学校建物は全体的に被害が大きい印象を持った。幸いなことに、最近建て直した学校建物が多いようだ。中には古い建物 S45 年前後の建物は被害があった。昨年北村小学校や鹿島台病院のような被害はこれまでのところ見受けられない。ただし、調査が可能な地域への調査の偏りがある状況である。それが決して被害の集中地域とは限らないのではないか。震源域の東側に行くことが可能であれば大きな被害があるのかもしれない。(田中)

- ・ 以上の状況をふまえ、東北支部としての組織的な対応について、以下のような議論を行った。
  - 土木学会、地盤工学会などの東北支部は、組織的な調査を実施しない方針のようだ。建築学会としては東海支部が協力意向を示している。(田中)
  - 東北支部として北陸支部を支援するにしても調査費用を懸念する。(源栄)
  - いろいろな意味で協力すべきである。直接、北陸支部の加藤先生、田守先生らと打ち合わせをした方がよい。その結果、必要であれば支援してはどうか。(柴田)
  - RC の建物被害はしばらく手がつけられないので、後からでも調査できると思うが、木造は早く調査する必要があるのではないか。支援する場合は、五十田先生と打ち合わせした方がよい。(前田)
  - 東北支部としての対応は以下の通りとすることに決定した。
    - ◇ 災害委員会本部、北陸支部から支援要請があった場合、
      - 1) 北陸支部からの支援要請を東北支部ウェブページに掲載して、調査支援者を自薦して頂く。その方を東北支部として支援要請先へ推薦する。
      - 2) 東北支部災害調査連絡会の幹事から東北支部のメンバーに対して調査支援を打診する。
    - ◇ 支援要請がない場合でも、個人的な調査活動はありえる。
  - 北陸支部の対応状況を常にウェブページで確認するようにしたい。ウェブページやメールで情報が得られるので、東北支部災害調査連絡会の開催は今回で最後とし、幹事の方で必要な対応を行うこととしたい。(田中)
  - 東北支部として調査すべき調査項目はあるのか。(田中)
  - 設備関係の被害調査が考えられるのではないか。(柴田)
  - 空気調和衛生工学会(本部)としての調査方針は現在検討中である。(岡田)
- ・ 5月、7月の地震の際、速報会を仙台で各1回開催した。東京、盛岡でも報告会を開催した。しかし、仙台での最終報告会を実施予定であったが、未開催のままであった。新潟の地震の速報会も兼ねながら、仙台の最終報告会を開催してはどうか。7月の地震と今回の地震との比較の観点から講演会かシンポジウム形式などが考えられる。開催時期は12月中旬ではどうか。(田中)
- ・ 新潟の地震の速報会で、北陸支部の方に来仙して頂くことには賛成である。ただし、12月開催と時期を決めることは難しいのではないか。北陸支部を中心とした調査状況を見ながら開催時期を検討してはどうか。(柴田)
- ・ 今回の地震は、地震の規模がバムの地震と全く同じである。宮城県北部の地震、バムの地震、そして今回の地震の3つの地震の比較も考えられる。(源栄)
- ・ 新潟の地震の速報会と昨年の宮城の地震の最終報告会と一緒に開催することに対して合意が得られた。開催時期は幹事の方で検討し、決まり次第報告する。(田中)
- ・ 東北支部に対するメディアなどからの問合せが支部長である近江先生のところへ数多く来ている。(源栄)その対応をインターネットWGの佐藤が担当することに決まった。
- ・ インターネットWG東北支部担当の後継者を育成していく必要がある。(源栄)
- ・ 後継者の育成は、東北大学の中で検討して頂きたい。(田中)
- ・ 災害委員会本部や北陸支部からの支援要請が東北支部に対してある場合、東北支部として支援・協力させて頂く基本方針を最終確認した。

以上(記録：佐藤 健)